

記入例

【第1ステージ(1~3年目)】

No.	園名	名前	経験年数	園内での担当

分野	到達目標 (自己評価 A:できる B:おおむねできる C:やや努力を要する D:努力を要する)	評価Ⅰ	評価Ⅱ	評価Ⅲ	
		月	月	月	
A マネジメント力	①全体的な計画・教育課程の理解と実践				
	園の教育・保育目標や全体的な計画・教育課程の内容について理解することができる。	C	C	B	
	乳幼児の実態に応じた、クラスの長期・短期の指導計画を作成することができる。	B	B	A	
	保護者との連携を十分に図り、乳幼児一人一人の生活について理解し、乳幼児の実態を把握することができる。	D	D	C	
	②園目標のクラス経営への反映				
	クラスの長期・短期の指導計画に基づいた実践を行い、先輩保育者等の助言・支援の下、指導の過程について評価を行い、指導計画の改善を図ることができる。	C	C	C	
	③園運営への参画				
	組織の一員として自覚をもち、協力的な態度で、自己に与えられた園務の内容を理解し、遂行できる。	C	C	C	
	園務を遂行する上で生じた課題について迅速な報告・連絡・相談をすることができる。	C	B	A	
	園務執行に必要な情報活用スキルを身に付け、正確な園務処理をすることができる。	C	B	B	
	④危機に対応できる管理能力				
	事故防止の取組について理解し、乳幼児が安心・安全に生活できる保育の場の環境を整備することができる。	B	B	B	
	危険を察知した際は、管理職の指示の下、迅速な対応等を行うことができる。	C	B	A	
	⑤小学校教育との円滑な接続				
小学校教育との円滑な接続の意義を理解し、ねらいを明確にもちながら、保育や交流活動等を実施することができる。	B	B			
⑥地域人材や資源、情報の活用					
地域・関係機関との連携の意義を理解し、ねらいを明確にもちながら、地域の資源を活用することができる。	C	C			
情報モラルや情報セキュリティを理解し、業務に必要な情報を適切に取り扱うことができる。	C	C			
年度末評価		A 25 %	B 25 %	C 25 %	D 0 %
B 専門的指導力	①基本的乳幼児理解に基づき指導・支援する力				
	管理職や先輩保育者等の助言の下、乳幼児一人一人の発達の特徴を理解し、その特性やその乳幼児が抱えている発達の課題を把握し、保育に生かすことができる。	B			
	管理職や先輩保育者等の助言の下、乳幼児一人一人の発達の特徴を踏まえ、それぞれの集団の中で、一人一人が主体的に周囲の環境に関わり、安心して自己発揮できるような保育をすることができる。	C			
	②家庭と共に課題を克服する力				
	連絡帳や園・クラスだより、電話、面談等を用いて、家庭と連携を図ることができる。	B			
	地域における子育て支援や、預かり・延長保育等、園の弾力的な運用について理解し、実践することができる。	C			
年度末評価		A 0 %	B 0 %	C 0 %	D 0 %
C 保育実践力	①保育における基本的な指導力				
	環境の構成及び保育者の関わり等について、乳幼児の発達の理解に基づき、教材を工夫したり、乳幼児の実態に応じた環境を意図的に構成したりすることができる。	C			
	乳幼児一人一人の内面を理解し、個の思いに寄り添った関わりをすることができる。	B			
	記録や評価の重要性を理解し、ねらいに対する記録や評価をすることができる。	C			
	日々の保育を振り返り、次の実践及び改善に生かすことができる。	C			

C 保育実践力	②秋田の探究型保育の実践力								
	乳幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、興味・関心を抱いたことに存分に取り組むことができるような保育を展開することができる。	C							
	周囲との関わりの中で相手の思いや考えを受け入れ、経験したことを生かすことができるような保育を行うことができる。	C							
	③保育研究・保育改善を推進する実行力（ICT活用を含む）								
	園内外の研修会（研究会）の目的を理解した上で参加し、研修内容を他の保育者に報告したり、自身の保育等に活用したりすることができる。	C							
研修会（研究会）に積極的に参加し、研修の成果や課題を生かし、自身の保育等を改善することができる。	C								
乳幼児の直接的体験との関連を考慮し、保育の中で情報機器を活用することができる。	B								
年度末評価		A	0 %	B	0 %	C	0 %	D	0 %
D 本県の教育課題への対応	①ふるさと教育・キャリア教育の推進								
	ふるさと教育・キャリア教育について理解し、身近な地域や自然環境の中で、積極的に人やものとの関わりを深める保育を展開することができる。	C							
	②“「問い」を発する子ども”の育成								
	“「問い」を発する子ども”の育成について理解し、安心できる環境の下、子どもが自己発揮できたり子どもの思いを受け止めたりする保育を展開することができる。	C							
	③特別な配慮を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じて指導・支援する力								
特別支援教育、交流及び共同学習の意義やねらいについて理解することができる。	C								
障害のある乳幼児の障害の種類や程度、特性等を理解することができる。	B								
管理職や先輩保育者等の助言・援助の下、障害のある乳幼児に対して、個に応じた指導や支援をすることができる。	C								
管理職や先輩保育者等の助言・援助の下、海外から帰国した乳幼児や日本語の習得に困難のある乳幼児に対して、個に応じた指導や支援をすることができる。	C								
年度末評価		A	0 %	B	0 %	C	0 %	D	0 %

◆評価を踏まえ、2つの重点目標を設定して取り組みましょう。

分野	重点目標1（評価Ⅰを踏まえて）	分野	重点目標2（評価Ⅰを踏まえて）
	<p>目標：（例） 記録や評価の在り方について理解し、ねらいに対する記録や評価ができる。</p> <p>方法：（例） ①要領から、記録や評価のポイントをまとめる。 ②記録や評価のポイントをもとに、月末に自分の評価や記録の仕方を振り返る。</p> <p>評価Ⅱ（B）（例） 毎月、評価のポイントをもとに自分の記録の仕方を確認したことで、ねらいの意識や個々のよさや伸びを意識して見取るようになってきた。引き続き取り組みたい。</p>		<p>目標： ←自分の強みや弱みを考えながら目標を設定 ←到達目標なので「できる」が基本</p> <p>方法： ←いつやるのか、時間的スケジュールを可能な限り入れる ←何をやるのか明確にする</p> <p>評価Ⅱ（ ）←A～Dのいずれかの評価を入れる</p>
分野	重点目標1（評価Ⅱを踏まえて）	分野	重点目標2（評価Ⅱを踏まえて）
	<p>目標：</p> <p>方法：</p> <p>評価Ⅲ（ ）</p> <p>次年度に向けて：</p>		<p>目標： ←評価Ⅱを踏まえて、ほぼ達成できたと思われる場合は、新たな目標を設定してもよい</p> <p>方法： ←目標に近づいているが、まだ、達成できていない場合は、そのまま継続又は方法を改善して継続する</p> <p>評価Ⅲ（ ）</p> <p>次年度に向けて：</p>

ダウンロード先：「わか杉っ子元気に！ネット」⇒「研修」⇒「自己到達目標評価表」